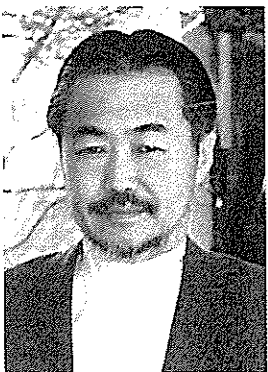


伊藤 聡

(いとうさとし)



略歴

一九六一年、岐阜県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科東洋哲学専攻後期博士課程満期退学。博士(文学)。現在、茨城大学人文学部教授。著編書に、真福寺善本叢刊6『兩部神道集』(翻刻解題)、『偽書』の生成——中世的思考と表現』(共編著)、『中世神話と神祇・神道世界』(編著)、『神道とは何か——神と仏の日本史』など。

〈受賞のことば〉

思いもかけずこのような賞を頂き、光栄に存じます。本書のテーマである中世神道の問題は、私が取り組みはじめた一九八〇年代後半においては、日本史・思想史方面では神道史・仏教学の一部で行なわれていたに過ぎませんでした。しかしそのいっぽう、中世文学の分野では「中世日本紀」「中世神話」として注目されつつあり、私は主にこの動きに導かれて研究を始めたのでした。ですから今回、本書を「歴史研究」として評価して頂いたことに、研究状況の大きな変化を感じます。また、私が着手したころは、中世神道の基礎的文献の調査研究が十分ではなく、その作業は教理書、印信、儀式次第等の発掘から始めることになりました。本書を構成する各章の多くは、かくのごとき資料調査の過程で見出した秘説や秘儀を解説する中での着想が元となっています。ようやく、このような形にまとめることができましたが、多くの課題が残されたままであり、本書はその中間報告というべきものです。新たな資料の出現等によって見直さなくてはならなくなるところも多々あります。うが、このたびの榮譽を励みとして今後も研究を継続していきたいと思っております。